

児童生徒理解・教育支援シート（試案）

記入例D

小学校4年生から欠席が目立ち、毎年申し送りをしていたが、
6年生においても欠席が続いていたケース

(小)

〇〇市立かすみ小学校

(中)

(高)

虎ノ門 D代

児童生徒理解・教育支援シート(共通 シート)

作成日:平成24年8月21日
作成者 H24(担任・〇〇 〇〇) 追記者 HO(記入者名)／HO(記入者名)／…

名前(よみがな)	性別	生年月日
虎ノ門 D代(とらのもん でいいよ)	女	平成15年9月30日

〇学年別欠席日数等	追記日→	〇／〇												
年度		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30				
学年		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	高4
出席しなければならない日数		200	200	200	200	200	198							
出席日数		197	190	180	166	66	10							
別室登校		0	0	0	2	3	3							
遅刻		1	0	5	15	0	0							
早退		1	2	2	8	0	0							
欠席日数		3	10	20	34	134	188							
指導要録上の出席扱い		0	0	0	0	61	173							
①教育支援センター		0	0	0	0	61	29							
②教育委員会所管の機関(①除く。)		0	0	0	0	0	0							
③児童相談所・福祉事務所		0	0	0	0	0	0							
④保健所、精神保健福祉センター		0	0	0	0	0	0							
⑤病院、診療所		0	0	0	0	0	0							
⑥民間団体、民間施設		0	0	0	0	0	0							
⑦その他の機関等		0	0	0	0	0	0							
⑧IT等の活用		0	0	0	0	0	144							

〇支援を継続する上での基本的な情報

特記事項(本人の強み、アセスメントの情報等)
・図工の時間が好きで、特に立体を表す題材では製作に集中し、表現を工夫している。 ・動物が好き。犬を飼っている。 ・場面緘黙で、友達とうまくコミュニケーションがとれない。このことから、友達トラブルになり、学校に行きたがらなくなった。 ・指導の場面でも何も言わない(言えない)ことが多いが、考えていないわけではない。

〇家族関係

特記事項(生育歴、本人を取り巻く状況(家族の状況も含む。)、作成日以降の変化等)
・保護者が本人の困らないように手をかけている。(H25.7.30) ・父親とは会えていない。(H25.7.30)

備考欄

--

児童生徒理解・教育支援シート(学年別 シート)

担任名 ○○ ○○
作成日 平成27年4月3日
作成者 担任
管理職名 校長・○○ ○○
追記者 ○／○(記入者名)、○／○(記入者名)、…

名前	性別	学校名	学年	学級
虎ノ門 D代(とらのもん でいいよ)	女	かすみ小	6年	1組

○支援チーム(校内・校外)

校内不登校対策委員会(担任、学年主任、校長、教頭、養護教諭、生徒指導主事、旧担任)、教育相談部会、教育支援センター(田中支援員)、渡辺SSW、高橋SC、虎門中学校(齋藤生徒指導主事)、鈴木指導主事(市教委)、田中校長、

○月別欠席状況等	※追記日→	5/1	6/1	7/1	7/23		10/1	11/2	12/1	12/26	2/1	3/1	3/27	
月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
出席しなければならない日数		15	18	22	13		20	21	19	18	15	19	18	198
出席日数		7	0	0	0		1	0	0	0	0	0	2	10
別室登校		0	0	0	0		1	0	0	0	0	0	2	3
遅刻		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
早退		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
累積欠席日数		8	26	48	61		80	101	120	138	153	172	188	188
欠席日数(出席扱いを含む)		8	18	22	13		19	21	19	18	15	19	16	188
指導要録上の出席扱い		7	18	22	13		19	21	16	17	14	16	10	173
①教育支援センター		2	0	2	0		4	3	1	3	1	3	10	29
②教育委員会所管の機関(①除く。)		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
③児童相談所・福祉事務所		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
④保健所、精神保健福祉センター		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
⑤病院、診療所		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
⑥民間団体、民間施設		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
⑦その他の機関等		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
⑧IT等の活用		5	18	20	13		15	18	15	14	13	13	0	144

○不登校(継続)の理由

・場面緘黙により友達とコミュニケーションがうまくとれないため。
・学力不振も気になっている。

○本人の状況・意向

1学期 7/23	2学期 12/26	3学期 3/27
・春休みを挟み、教育支援センターへの通級ができていない。学力がつかないことを気にしている。週1回の家庭訪問により、本人と話ができる。家庭では、落ち着いた会話ができる。 ・5年生後半頑張ったが疲れたと言っている。	・週1回の家庭訪問を継続。本人、保護者と話ができるが、登校には結びつかない。学習プリントは自宅で行えている。 ・修学旅行に参加できなかったのは残念だが、仕方がないとも思っている。	・卒業に向けて、アプローチしてきたが、登校に至らなかった。また、卒業式にも参加できなかった。 ・中学校生活への不安もまだ強く、行きたいが、行けないかもしれないと葛藤している。。

○保護者の状況・意向

1学期 7/23	2学期 12/26	3学期 3/27
教育支援センターへの通室ができなくなり、自宅で勉強を見ている。学校、教育支援センターとの関係は良好である。引きこもりにならないか心配している。	修学旅行への参加に協力的であったが、結局参加できず残念がついていた。中学校への進学を急ぎ、学力をつけたいと考えている。	学校復帰を果たせないことに焦りを感じている。また、中学校へは登校させたいが、難しいと考え、教育支援センターへの通室を復活させたいと考えている。

○具体的な支援方針

	目標	具体的な支援内容		経過・評価
		学校	関係機関	
1学期	継続的な家庭訪問により、学校との関係を維持し、学校復帰への手立てを探る。 4月6日	・家庭訪問(週1回) ・新しい学級の様子を伝える。 ・漢字、計算の学習プリント	・教育支援センター、SC、SSW、 教委との情報共有	春休みを挟み、教育支援センターへの通室ができていない。継続的な家庭訪問により、学校・新担任との関係は良好である。修学旅行を次の復帰のきっかけにしたい。
2学期	修学旅行への参加から学校復帰を目指す 8月22日	・家庭訪問(週1回)の継続 ・修学旅行の取組の様子を伝える。 ・学習プリント	・教育支援センター、SC、SSW、 教委との情報共有	修学旅行への関心が少し見られたが、参加には至らなかった。学習は頑張っている。
3学期	中学進学への不安の軽減と卒業式の参加に向けて取り組む 12月26日	・家庭訪問(週2回)の継続 ・卒業に向けての取組と中学に関する情報を伝える。	・教育支援センター、SC、SSW、 教委との情報共有 ・かすみ中との情報共有	卒業に向けての話をしてきたが、式には出席できなかったが、保護者と一緒に後日に証書を受け取りに来ることができた。本人の中学進学への不安は、まだ強い。

○次年度への引継事項(支援・指導の参考となるエピソード等も含め、多様な視点で記入)

・家庭では、普通に家族と会話している。
・担任を始め、父親とは話をする機会が得られていない。
・母親と祖母が家庭では勉強を見ている。学力は十分に身につけているとは言えない。
・本人は素直な性格で、家庭訪問等では会話ができる。学習プリントの指示などもよく聞ける。進学には不安がある。
・学級の様子にそれほど関心を示さないが、行事の前に渡した同じ班の児童の手紙は、熱心に読んでいた。
・母親は、中学進学を機会に登校してほしいと思っているが、難しいとも思っている。教育支援センターへ通ってほしいと思っている。
・5年生のときに、母親へ医療機関との連携を勧めていたが、その後もつながるには至っていない。
・近所の友達と遊ぶこともしていない。保護者と一緒なら、学校に来て担任と会話できる。
○中学進学を機会にスマホを購入予定とのことから、引きこもりも心配である。使い方については、家庭での約束を守るよう学校も支援が必要と思われる。
○勉強が難しくなるなど中学への不安があることが分かっている。進路指導を含め、中学校でも教育支援センターとの連携を進めてほしい。

児童生徒理解・教育支援シート(学年別 シート)

担任名 ○○ ○○
作成日 平成26年4月6日
作成者 担任
管理職名 校長・○○ ○○
追記者 ○／○(記入者名)、○／○(記入者名)、…

名前	性別	学校名	学年	学級
虎ノ門 D代(とらのもん でいいよ)	女	かすみ小	5年	1組

○支援チーム(校内・校外)
校内不登校対策委員会(担任、学年主任、校長、教頭、養護教諭、生徒指導主事、旧担任)、教育相談部会、山田校医、教育支援センター(田中支援員)、鈴木指導主事(市教委)、渡辺SSW

○月別欠席状況等	※追記日→	5/6	6/2	7/1	7/23		10/1	11/2	12/1	12/26	2/1	3/1	3/27	
月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
出席しなければならない日数		15	18	22	13		20	21	19	18	15	19	20	200
出席日数		13	15	19	9		3	0	0	2	0	1	4	66
別室登校		0	0	0	0		1	0	0	0	0	0	2	3
遅刻		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
早退		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
累積欠席日数		2	5	8	12		29	50	69	85	100	118	134	134
欠席日数(出席扱いを含む)		2	3	3	4		17	21	19	16	15	18	16	134
指導要録上の出席扱い		0	0	0	0		0	0	0	14	14	18	15	61
①教育支援センター		0	0	0	0		0	0	0	14	14	18	15	61
②教育委員会所管の機関(①除く。)		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
③児童相談所・福祉事務所		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
④保健所、精神保健福祉センター		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
⑤病院、診療所		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
⑥民間団体、民間施設		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
⑦その他の機関等		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
⑧IT等の活用		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0

○不登校(継続)の理由
・友達とコミュニケーションを取るのが苦手である。気持ちを伝えたりすることができない。
・外国語活動は特に苦手。
・夏休みの宿題を終わらせられなかったこと、苦手な運動会があるため。(10/1)

○本人の状況・意向	1学期 7/23	2学期 12/26	3学期 3/27
高学年になり、意欲を持ってスタートできた。遅刻や早退がなくなるなど努力が見られた。 学校生活を頑張ろうという気持ちがある。	夏休みを境に、欠席が急増した。宿題を終わらせられなかったことや運動会の組み体操を気にしていた。 勉強が分からなくなってきたので、頑張りたいという思いがある。	ほとんどセンターを休むことなく活動できた。通室の友達とも少しずつであるが、一緒に活動するなど、関係を作れるようになった。 一緒に活動できる友達がいて嬉しいと思っている。	

保護者の状況・意向	1学期 7/23	2学期 12/26	3学期 3/27
順調なスタートが切れ、安堵していたが、7月に欠席が続き、少し今後を危惧するようになった。新しい担任との関係は良好である。 このまま、順調に通ってほしいと願っている。	学校へ行きたくないと言いつ出したことに戸惑っていたが、すぐに担任に連絡がもたらされた。紹介した教育支援センターについては、出席扱いとなることに納得され、継続させたいと考えている。	教育支援センターへの通室に協力的であった。センターの先生とも関係は良好である。 学校復帰が無理でもセンターへの通室は継続させたいと考えている。	

○具体的な支援方針	目標	具体的な支援内容	経過・評価
1学期	友達との関係づくりと4年生の復習	・学級開きの工夫 ・行間休みの学級レク(週1回・係活動) 教育相談部会で情報共有	※この時点で、個別の連携なし 学校・担任との関係は良好である。外遊びはあまり好きではないようだが、レクには半分程度参加できた。 学習も順調である。
2学期	学校復帰に向けて、教育支援センターと連携して取り組む	・家庭訪問(週1回)の実施 ・教育支援センターへ担任が出向いた。	2学期からはほとんど欠席となってしまったが、教育支援センターについては理解が得られ、通室を始めた。学校とセンターの連携も取れている。
3学期	学校復帰に向けて、教育支援センターと連携して取り組む	・家庭訪問(週1回) ・友達とグループ日記で交流	通級は継続できた。苦手なことに挑戦しているが、克服には時間がかかりそうである。グループ日誌は、途中で止まってしまった。学校とセンターの連携は取れている。

○次年度への引継事項(支援・指導の参考となるエピソード等も含め、多様な視点で記入)
・家庭では、普通に家族と会話しており、生活するのに不便はない。
・母親と祖母が家庭では勉強を見ている。学習内容が増え、学習意欲は徐々に下がったように感じる。
・本人は素直な性格で、担任は会話ができる。
・グループ日誌は、一月ほどは続けられたが、その後は書くのが苦しそうだったので、学級内の児童のみで継続。
・母親は、学校の対応に理解を示している。学校に無理矢理行かせることはないと考えている。
・11月の学校公開週間に校医に相談。3学期に、母親へ医療機関との連携を勧めた。現状では具体的な動きには結びついていない。
・家族とは外出できるが、一人で外へ出ることはほとんどないとのこと。
○教育支援センターへの通室は出席扱いとした。このことで、モチベーションが上がっている。
○2学期以降はほぼ登校できていないため、6年生では、新担任との人間関係を確実に構築する必要がある。教育支援センターへ出向いたり、家庭訪問したりして、顔を合わせるほか、旧担任の協力も必要。

児童生徒理解・教育支援シート(学年別 シート)

担任名 ○○ ○○
作成日 平成25年8月21日
作成者 担任 追記者 ○／○(記入者名)、○／○(記入者名)、…
管理職名 校長・○○ ○○

名前	性別	学校名	学年	学級
虎ノ門 D代(とらのもん でいいよ)	女	かすみ小	4年	2組

○支援チーム(校内・校外)
校内不登校対策委員会(担任、学年主任、校長、教頭、養護教諭、生徒指導主事)、教育相談部会

○月別欠席状況等 ※追記日→					8/21	10/1	11/2	12/1	12/26	2/1	3/1	3/27	
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
出席しなければならない日数	15	18	22	13		20	21	19	18	15	19	20	200
出席日数	13	15	17	10		18	18	15	15	12	16	17	166
別室登校	1	0	0	0		0	0	0	0	0	0	1	2
遅刻	0	1	1	3		2	1	2	2	1	1	1	15
早退	1	0	1	1		1	1	0	1	1	1	0	8
累積欠席日数	2	5	10	13		15	18	22	25	28	31	34	34
欠席日数(出席扱いを含む)	2	3	5	3		2	3	4	3	3	3	3	34
指導要録上の出席扱い	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
①教育支援センター	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
②教育委員会所管の機関(①除く。)	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
③児童相談所・福祉事務所	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
④保健所、精神保健福祉センター	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
⑤病院、診療所	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
⑥民間団体、民間施設	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
⑦その他の機関等	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
⑧IT等の活用	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0

○不登校(継続)の理由
・断続的に体調不良により欠席している。
・友達との人間関係づくりが苦手。

○本人の状況・意向			
1学期 8/21		2学期 12/26	3学期 3/27
1学期は、月に数日休んでいたが、腹痛などの体調不良であった。6月は連続しての欠席もあったが、家庭訪問し、その後は登校していた。勉強を頑張りたいと思っている。		昨年20日欠席で、1学期にも13日欠席している。休み明けに体調不良で欠席や遅刻が多い。登校しているときは、落ち着いた様子で過ごしている。運動会は嫌だと思っている。	断続的な欠席の状況は変わらなかった。高学年に向けて、頑張りたいという意欲はある。教室では、休み時間に一人でいることが多く、よく本を読んでいた。緊張せずに友達と話ができたらいと思っている。

○保護者の状況・意向			
1学期 8/21		2学期 12/26	
欠席する日の朝に、電話連絡をもらえている。家庭訪問には感謝された。 元気に登校してほしいと思っている。		週の頭に休む傾向にあるため、家庭訪問時には、保護者と週末の過ごし方について話をした。保護者は理解を示し、協力する意向が確認できた。	
		保護者とは連携が取れていて、音読の目標についても理解が得られた。週に1日ぐらいの欠席ながら、登校できている状況にそれほど不安はないようである。	

	目標	具体的な支援内容		経過・評価
		学校	関係機関	
1学期		・家庭訪問(6月1回)	※この時点で、個別の連携なし	昨年の欠席がやや多いので、心配であったが、登校しているときは落ち着いて過ごしていた。
2学期	健康的な生活習慣の確立	・家庭訪問(10・11月、計2回) ・家庭訪問に養護教諭と同行 ・教育相談部会で共有 8月21日	※この時点で、個別の連携なし	運動は得意ではないが、運動会に向けて努力していた。(当日は欠席)みんなの前で発表することが苦手である。日曜日は次の日の用意をして、早めに就寝するようになった。
3学期	健康的な生活習慣の確立と音読練習(12/26)	・家庭訪問(3月1回) ・定例保護者面談(1月) ・家庭訪問に学年主任と同行 ・教育相談部会で共有 12月26日	※この時点で、個別の連携なし	月に数回の欠席は変わらなかったが、保護者との連携が取れ、音読練習も努力した。

○次年度への引継事項(支援・指導の参考となるエピソード等も含め、多様な視点で記入)
・断続的な欠席により30日を超えている。休み明け(月曜など)の体調不良により、欠席することが多い。
・週末や放課後に、友達と遊ぶことがほとんどないことが分かった。外で遊ぶことや、早寝早起きについて、養護教諭と一緒に話ができた。友達と遊ばないのは、以前からのようである。保護者の理解、協力は得られている。
・みんなの前での発表は苦手であり、指名すると緊張してしまう。音読練習を家庭で協力してもらうほか、指名については、順番を提示するなどの配慮をした。
○次年度も、学級編成の他、座席配置や指名等、配慮する必要がある。
○話すコミュニケーションが苦手なので、書くことを利用することも試したい。
○教育支援センターは、再度見学を勧めることも必要。この際の、見学場面も作業や実習がよいと思われる。

児童生徒理解・教育支援シート(ケース会議・検討会等記録)

日付 H28.1.7

学年・組	名前	参加者・機関名
6年1組	虎ノ門 D代	校内不登校対策委員会(担任、学年主任、校長、教頭、養護教諭、生徒指導主事、旧担任)、教育相談部会、教育支援センター(田中支援員)、渡辺SSW、高橋SC、鈴木指導主事(市教委)

○本人の意向

- ・勉強ができるようになりたいという思いがある。
- ・中学への進学に対して心配がある。(通えるか、うまくやっていけるか)

○保護者の意向

- ・無理に学校へ行くよりは、教育支援センターへ行かせたい。
→教育支援センターへはあまり行けなくなったが、関係は保ちたい。
- ・中学では、心機一転頑張っしてほしいと思っている。

○関係機関からの情報

- 〈教育支援センター〉
- ・春休みを挟み、4月から月に数回しか通えていない。しかし、通所できたときは、明るい笑顔も見られた。
- ・学習意欲があり、課題に対して真剣に取り組むことができた。調理実習には欠かさず参加した。
- ・家庭訪問で渡したプリント類をほとんど仕上げるなど、努力している。
- 〈SC〉
- ・本人の意向欄参照
- 〈市就学支援委員会〉
- ・通常学級への在籍が望ましい。(特別支援学級の弾力的な活用を図ることも必要)

○支援状況

支援目標		
卒業に向けて、教育支援センター、中学校と連携して取り組む		
機関・分掌ごとの役割分担	短期目標	経過・評価
担任・学年	教育支援センターとの連携	情報共有できた。
不登校対策委員会	学校復帰計画(ビジョン)見直し	ビジョンを見直し、共有
教育支援センター	通室への働き掛け、情報提供	関係の継続はできた。
SC	面談によるアセスメント見直し	面談による意向確認ができた。
市教育委員会	SC・SSW・中学校との調整	生徒指導担当者会議で情報共有
SSW	父親への働き掛け	会うことができなかった。

○確認・同意事項

- ・中学進学を含めたビジョンを共有し、取り組む。
- ・本シートを確実に引き継ぎ、活用する。

○特記事項

--

児童生徒理解・教育支援シート(ケース会議記録)

日付 H26.12.3

学年・組	名前	参加者・機関名
5年1組	虎ノ門 D代	不登校対策委員会(担任、学年主任、校長、教頭、養護教諭、生徒指導主事)、教育支援センター(田中支援員)、鈴木指導主事(市教委)、渡辺SSW

○本人の意向

- ・勉強を頑張りたいという思いは続いている。
- ・調理実習は、特に好きである。
- ・通所している友達とも仲良くしたい。

○保護者の意向

- ・教育支援センターに行けるようになり、手伝いをするなど、本人の生活が変わってきたと感じている。
- ・学校に戻ることは、本人の意思を尊重したい。

○関係機関からの情報

〈教育支援センター〉

- ・12月から通所できた。きっかけは、再度見学した際に見た、調理実習であった。かなり興味を持ったようである。
- ・学習意欲があり、真剣に学習に取り組める。算数については、4年の学習内容から復習を始めている。
- ・友達とはあまり話さないが、作業的な活動は先生が入ることと一緒にできる。
- ・夕飯づくりと後片付けの手伝いをできるだけするという家事の分担について約束した。
- ・センターにいる金魚の面倒をよく見ている。

○支援状況

支援目標

学校復帰に向けて、教育支援センターと連携して取り組む

機関・分掌ごとの役割分担	短期目標	経過・評価
担任・学年	教育支援センターとの連携	センター訪問で情報共有できた。
不登校対策委員会	学校復帰計画(ビジョン)作成	ビジョンを作成し、共有した
教育支援センター	継続通室による支援	継続して通室できた。
市教育委員会	SSWとの連絡調整	今年度の派遣なし
SSW	医療機関へつなげる	母親からは必要ないとの判断

○確認・同意事項

- ・学校復帰に向けたビジョンを保護者と共有する。定期的な見直しも行う。

○特記事項

児童生徒理解・教育支援シート(不登校対策委員会記録)

日付 H25.1.24

学年・組	名前	参加者・機関名
4年2組	虎ノ門 D代	不登校対策委員会(担任、学年主任、校長、教頭、養護教諭、生徒指導主事)、教育支援センター(田中支援員)、鈴木指導主事(市教委)

○本人の意向

- ・勉強は大事だと考えている。
- ・学校は緊張するため、行きたくない。
- ・級友とも仲良くしたいとは考えている。

○保護者の意向

- ・家庭では普通に過ごしており、素直であるため、無理に学校へ行かせたくはない。
- ・時間が経てば、コミュニケーションがとれるようになって考えている。

○関係機関からの情報

- ・教育支援センターを勧めた際に、見学している。担当の先生とは会話ができたが、他の児童生徒が気になっているようであった。結局、通所には至らなかった。

○支援状況

支援目標

休日を含めた規則正しい生活習慣の確立と学習支援

機関・分掌ごとの役割分担	短期目標	経過・評価
担任・学年	家庭への働き掛けの強化	音読練習等の協力を得られた。
不登校対策委員会	家庭訪問への同行	3月に学年主任の同行で家庭訪問を実施した。
教育支援センター	短時間通室の試行	通室には至らなかった。
市教育委員会	SSWとの連絡調整	今年度の派遣なし

○確認・同意事項

- ・今後(次年度)は、SSWへのアセスメント依頼を検討する。

○特記事項